

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：16101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2011

課題番号：19791702

研究課題名（和文） 退院移行期における虚血性心疾患患者の生活再編成への試み—性差に注目して—

研究課題名（英文） Sexual differences in life change of person with ischemic heart disease transitional from hospital discharge to their home living

研究代表者

安原 由子（YASUHARA YUUKO）

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・助教

研究者番号：90363150

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、虚血性心疾患患者が、退院移行期に生活の再編成に向け、どのような試みをしているのかを明らかにし、性差に注目することであった。虚血性心疾患患者の退院前後の生活の質と生活パターンの変化、生活をする上での患者の思いなど、多方面から生活再編成の試みについて明らかにした。性差においては、SF36 の身体機能が女性は男性よりも有意に低値を示していた。睡眠においては、男性よりも女性が改善しているようであった。活動状況において有意な差はなかった。

研究成果の概要（英文）：

In Japan during recent years, percutaneous coronary intervention (PCI) has been a main therapeutic method for ischemic heart disease (IHD). However, there is little known about early outcomes such as Health-Related Quality of Life (QOL) and life rhythm of daily living (LRDL) post PCI. The purpose of this study was to examine the sexual differences and life change of patients with IHD who underwent PCI from hospital discharge to their home living. We used the SF36 ver2 (Medical Outcomes study 36- Item Short-Form Health Survey) and Accelerometer (AMI, Actigraph). Patients who underwent PCI at one public hospital were assessed on QOL and LRDL during hospitalization to discharge, approximately 10 days. Furthermore, selected patients were for a semi-structure interview about life after the discharge. We comprehensively analyzed three different quantitative and qualitative assessment indicators. The main findings are as follows: 1) Patient's sleep quality was improved following discharge (evaluated by Actigraph); 2) Patient's QOL was not improved (evaluated by SF36); 3) Positive relationship between patients' feeling of unhealthiness and the necessity to continue improving lifestyle habits were evaluated and correlated utilizing semi-structure interviews; and 4) As sexual differences, women patients were significantly older than men in the average age. In the items of physical function of SF36, women patients showed significantly lower value than men. It was suggested that women patients improve their sleep condition than the men after discharge. However, there was no significant sex difference in activity status.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度			
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,200,000	630,000	3,830,000

※平成20年度(2008) 育児休業に伴い申請保留届を提出し、研究活動を休止

研究分野：臨床看護学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：虚血性心疾患，退院移行期，生活リズム，生活の質，性差

1. 研究開始当初の背景

2008年の我が国の人口動態統計によると、心疾患による死亡は死因の第2位であり、心疾患の総死亡数は181,929名で、うち急性心筋梗塞が24.0%、虚血性心疾患は18.1%を占めている。薬剤溶出性ステントをはじめとする冠動脈インターベンションなど医療技術の進歩により、CCUを有する施設での急性心筋梗塞の院内死亡率は10%以下になっているが、再狭窄や再梗塞を生じやすい病いである。

一方、患者は在院日数の短縮化で身体的・精神的回復を十分実感せず、また退院後の生活を考える時間を十分に与えられないまま退院を強いられている可能性がある。特に、外来通院型心臓リハビリテーションを受けていない患者は、心臓病者としての身体ペースをつかむまでの間、自ら活動の範囲や程度を決定しなければならず、生活の再編成にむけ戸惑いや不安・困難さを感じていることが推測される。

近年、虚血性心疾患のジェンダーの相違が注目され、女性の虚血性心疾患発症には、エストロゲン低下が関与しているため閉経後に急増し、発症年齢が男性より約10年遅い。また、女性は不安定狭心症例が多く、男性とは違った症状で発症するとも言われている。そして、米国などの諸外国に比べ冠動脈攣縮性の狭心症が多いのも我が国の特徴である。これらのことから、性差だけではなく諸外国とは異なる人種や文化的背景をも踏まえた研究の推進が急務である。

2. 研究の目的

虚血性心疾患患者が、病院から自宅に戻る退院移行期に生活の再編成に向け、どのような試みをしているのかを明らかにすることが目的で主に以下の項目について検討した。

1. 退院前から退院後約1ヶ月を目安に、生活の再編成をどのように考え、行っているのか、患者の立場から記述す

る。

2. 退院を控えた入院中と退院直後では生活リズムやQOLがどのように変化するのか明らかにする。
3. 生活の再編成への試みを男女で比較すると、相違点と共通点はどのような特徴があるかについて明らかにする。

3. 研究の方法

QOLには健康関連尺度であるSF36ver2(SF36)を用いた。生活パターンの測定には携帯型加速度センサー(AMI社製マイクロミニ型アクチグラフ)を入院中から退院日を除く7日間装着してもらった。さらに、退院後初回外来受診の前に思いや試みについて半構造化面接を行った。

4. 研究成果

1) 生活の再編成をどのように考え、行っているのか

PCIを受けた虚血性心疾患患者を対象として、退院後初回外来受診時前に半構成的面接を行った。そして、待機的PCIを受けた患者7名を抽出し、退院後の思いや過ごし方について語ってもらった内容をカテゴリー化した。

その結果、待機的PCI患者は、医学上の治療に成功したものの【治療後も安定しない体調】の変化を感じていた。待機PCI患者に特徴的であったのは、初回PCI治療や内服治療の始まりから【心臓病と言われるまでの生活の振り返り】を行い、今の自分のできる【これ以上悪くならないような生活習慣の継続】をしていた。そして、時間とともに自分なりの【治療を継続させるための構え】をもっていた。それにも関わらず、PCIが必要になり、完治の【願いに反して再治療が必要な現実】と直面していた。

2) 入院中と退院後ではどのように生活パターンが変化するか

PCI を受けた虚血性心疾患患者の退院前後の活動と睡眠パターンを明らかにした。

①睡眠と休息：対象者 41 名の就寝区間中の睡眠を分析した。退院前日と退院 7 日目を比較したところ、就寝区間帯時間と全睡眠時間、睡眠百分率、最長睡眠時間は退院 7 日目の方が有意に増加していた。また、就寝区間中の平均身体活動数と全覚醒時間は退院後 7 日目の方が有意に低下していた。性別による比較では、退院 7 日目の最長睡眠時間のみが男性よりも女性で有意に高値を示していた。

年齢においては、65 歳以上のものが退院前日の全覚醒時間、最長覚醒時間が有意に高値を示した。

②活動：待機的 PCI を受けた 17 名の患者を対象に退院当日と退院後 1 週間の活動について検討を行った。退院後 1 週間の方が活動区間時間と全覚醒時間が有意に低値を示していた。また待機的 PCI を受けた 70 歳代の患者を対象に性差を比較した場合、男女とも退院後時間の経過とともに平均活動数は増加しており体動加速度指数前日を通してマイナス値であり、ゆっくりとした活動を行っていることが明らかになった。

3) QOL は経時的にどのように変化するか

PCI を受けた虚血性心疾患患者を対象に健康関連尺度である SF36 を用いて測定を行った。対象者は郵送返却のあった対象者 39 名とした。退院当日と退院後 7 日目を比較した場合、身体機能、日常役割機能：身体、身体の痛み、全体的健康観、活力、社会的役割、日常役割：精神、心の健康の 8 つの下位尺度全てにおいて有意差はなかった。性別で比較した場合、退院当日と退院後 7 日目において身体機能が男性よりも女性が有意に低値であった。年齢においては 65 歳以上の者が退院当日の全体的健康観、活力、心の健康が有意に高値であり、身体的機能は退院当日、退院後 7 日目ともに 65 歳以上の方が 65 歳以下のものよりも有意に得点が低かった。

4) 性差について

退院移行期の生活パターンに関して、活動では男女とも比較的ゆっくり

とした活動を行い、平均身体活動数も性差は認められなかった。睡眠においては、退院後 7 日目において男性よりも女性の最長睡眠時間のみが有意に高値であった。しかし、それ以外の項目については差は認められなかった。

次に、QOL においては退院当日と退院後 7 日目において身体機能が女性の方が有意に低値を示していた。身体機能得点が低いということは健康上の理由で、活動を自力で行うことが難しいことを示すため、退院移行期においては女性の方が虚血性心疾患による身体機能の低下を感じていることが考えられた。しかしながら、女性患者の方が男性患者よりも平均年齢が 10 歳程度高齢であることや、退院直後から生じる家事活動がこれまで通り行えないことなど社会的役割などが QOL 得点を低下させていることが考えられた。

生活の再編成においては、運動習慣の開始や継続、食生活を見直したり、定期的受診をするなどにおいて大きな相違はなかった。しかし、男性に比べ女性は退院直後から自らで食事を作るものが多く、病院食などを参考に自分自身で食生活を改善しようとする傾向が強いようであった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

① 安原 由子, 谷岡 哲也, 川西 千恵美, 藤川 栄二, 藤永 裕之, 小林 春男, 大森 美津子：女性の急性心筋梗塞患者と待機的経皮的冠動脈インターベンション患者の退院前後の活動リズム変化—2 症例の考察—, 香川大学医学部看護学科紀要, Vol.15, No.1, p.1-7, 2011.査読有
DOI : —

② Yuko Yasuhara, Kaori Harno, Eiji Fujikawa, Hiroyuki Fujinaga, Tetsuya Tanioka, Haruo Kobayashi, Glenn Pfaff, Usar Suragarn: Effectiveness of the integration of different types of quantitative and qualitative assessment indicators for the patients with ischemic heart disease who underwent percutaneous coronary intervention (PCI), Proceeding of the 7th International Conference on Natural Language Processing and Knowledge Engineering, Tokushima, p454-458, Nov, 2011.査読有

- DOI: 10.1109/NLPKE.2011.6138242
- ③ 安原 由子, 川西 千恵美, 谷岡 哲也, 藤川 栄二: 地域で生活する虚血性心疾患患者の QOL の変化—待機的 PCI 患者と緊急 PCI 患者, 性別での比較—, 日本看護学論文集 地域看護, 41, p.80-83, 2010. 査読有
DOI: —
 - ④ Yasuhara Y, Takada S, Tanioka T, Kawanishi C, Locsin RC: Illness experiences of patients with ischemic heart disease during their transitional phase from hospitalization to discharge in Japan, The Journal of Medical Investigation, 57, (3, 4), p.293-305, 2010. 査読有
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/repository/file/83942/20111214100618/LID201112142005.pdf>
 - ⑤ 安原 由子: 虚血性心疾患患者の退院直後の病の体験—女性患者に焦点を当てて—, 日本看護学論文集, 成人看護 I, 38, p. 90-92, 2009. 査読有
DOI: —
 - ⑥ Yuko Yasuhara, Tetsuya Tanioka and Chiemi Kawanishi: A fundamental study to clarify the life rhythms of patients with ischemic heart disease using the ActiGraph, INFORMATION, pp.419-422, Nov. 2009. 査読有
DOI: —

【学会発表】(計 12 件)

- ① 安原由子, 谷岡哲也, 藤川栄二, 藤永裕之, 小林春男: 経皮的冠動脈治療 (PCI) を受けた虚血性心疾患患者の退院後の睡眠パターン, 第 35 回中国・四国精神保健学会, p.72, 2011 年 11 月 18・19 日, 高知会館 (高知県).
- ② 安原 由子, 谷岡 哲也, 藤川 栄二, 藤永 裕之, 小林 春男: 待機的 PCI 治療を受けた女性の虚血性心疾患患者の睡眠パターンと QOL との関係, 第 75 回日本循環器学会学術集会, p.148, 2011 年 8 月 3・4 日, パシフィコ横浜 (神奈川県).
- ③ 竹條 うてな, 安原 由子, 谷岡 哲也, 藤川 栄二, 藤永 裕之: 待機的冠動脈インターベーションを受けた虚血性心疾患患者の退院後の体調の変化とその対処法, 第 75 回日本循環器学会学術集会, p.148, 2011 年 8 月 3・4 日, パシフィコ横浜 (神奈川県).
- ④ 安原由子, 谷岡哲也, 藤川栄二, 藤永裕之: PCI 治療を受けた虚血性心疾患患者への退院後の最適なケア計画—多

- 職種共有型アセスメントツールの試作—, p.257, 2011 年 7 月 16・17 日, 大阪国際会議場 (大阪府).
- ⑤ 藤川栄二, 安原由子, 谷岡哲也, 藤永裕之: 複数回 PCI 治療を要する患者への看護支援方法の検討—再狭窄を繰り返す患者の症例を通して—, 第 17 回心臓リハビリテーション学会学術集会, p.257, 2011 年 7 月 16・17 日, 大阪国際会議場 (大阪府)
 - ⑥ Yuko Yasuhara, Utena Chikujyou, Tetsuya Tanioka, Eiji Fujikawa and Hiroyuki Hujinaga: Development of the assesment tool for optimal care for patients with Ischemic heart disease who underwent elective percutaneous coronary intervention, CEBU INTERNATIONAL NURSING CONFERENCE, p.99, Apr. 2011 年 4 月 26-27 日, CEBU(Philippine)
 - ⑦ Yuko Yasuhara, Tetsuya Tanioka, E Hujikawa and H Hjinaga: Early outcomes of patients with ischemic heart disease who underwent elective percutaneous coronary intervention, 14th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), 2011 年 2 月 11-12 日, Seoul Olympic Parket(Seoul).
 - ⑧ 安原 由子, 川西 千恵美, 谷岡 哲也, 藤川 栄二: 地域で生活する虚血性心疾患患者の QOL の変化—待機的 PCI 患者と緊急 PCI 患者, 性別での比較—, 日本看護学論文集 地域看護 41, p.80-83, 2010 年 10 月 14-15 日, 滋賀
 - ⑨ 安原 由子, 川西 千恵美: 虚血性心疾患患者の退院前後の活動の変化—女性の虚血性心疾患患者と待機 PCI 患者との比較—, 日本看護研究会 第 36 回学術集会抄録集, 2010 年 8 月 21・22 日, 岡山コンベンションセンター (岡山県).
 - ⑩ 安原 由子, 藤川 栄二, 谷岡 哲也, 藤永 裕之: 虚血性心疾患患者の退院前後の生活リズム変化—70 歳代の待機的 PCI 施行患者の性差に注目して—, 第 16 回心臓リハビリテーション学会学術集会, p.188, 2010 年 7 月 17 日, かごしま県民交流センター (鹿児島市).
 - ⑪ 藤川 栄二, 安原 由子, 谷岡 哲也, 藤永 裕之: 虚血性心疾患患者の退院前後の生活リズムと QOL の変化—待機的 PCI 施行患者に焦点を当てて—, 第 16 回心臓リハビリテーション学会学

- 術集会, p.188, 2010年7月17日, かがしま県民交流センター(鹿児島市)
- ⑫ 安原 由子: 虚血性心疾患患者の退院直後の病の体験—女性患者に焦点を当てて—, 日本看護学学会, 成人看護 I, 38, p. 90-92, 2007年12月7-8日, 東京国際フォーラム.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安原 由子 (YASUHARA YUUKO)
徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・助教
研究者番号: 90363150

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

谷岡 哲也 (TANIOKA TETSUYA)
徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授

研究者番号: 9031997

川西 千恵美 (KAWANISHI CHIEMI)
徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授

研究者番号: 40161335

(5) 研究支援者

藤永 裕之 (徳島県立中央病院循環器内科部長)

藤川 栄二 (徳島県立中央病院 10 階病棟看護師)

久米賀代子 (徳島県立中央病院 10 階病棟師長)

黒石 智子 (徳島県立中央病院外来師長)

緒方江里子 (徳島県立中央病院副看護師長)

伊藤 典子 (徳島県立中央病院 10 階病棟師長)

町田 美香 (徳島県立中央病院外来師長)

竹條うてな (徳島大学医学部保健学科 4 年生)